

食育だより 1月



平成29年1月10日
練馬区立豊玉第二中学校

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく申し上げます。穏やかで元気な一年にしたいものです。給食を通して食べることの大切さや、健康に過ごせることの意味を感じられる一年にできるよう、給食室一同心を込めて給食作りをしていきたいと思っています。

全国学校給食週間とは

学校給食は、栄養のバランスの取れた食事によって子どもたちの成長を支え、食べて味わう「生きた教材」として、望ましい食事のとり方の手本となる、思いやりや社会性を身につける、自然の恵みや勤労に感謝する、さまざまな地域の食文化を知り伝統を未来に伝えるなどの役割があります。そして、食べることを通して社会のしくみを学んでいきます。

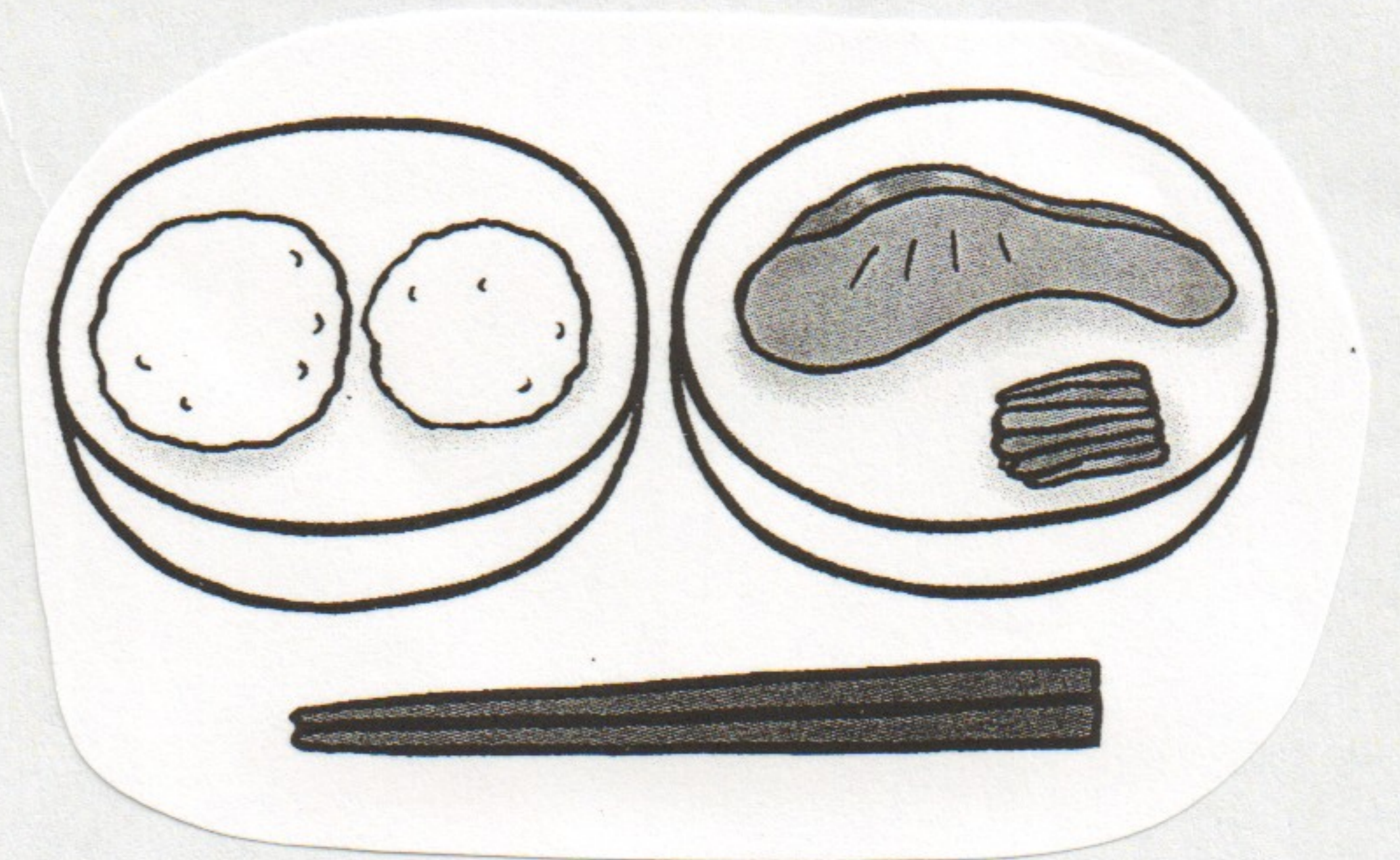
全国学校給食週間は、このような学校給食の意義や役割について理解を深め、関心を高めてもらうために行われる毎年恒例の行事です。



日本で最初の学校給食は、明治22(1889)年、現在の山形県鶴岡市にあった私立忠愛小学校で、お弁当を持ってこられない子どもたちに無償で提供された昼食でした。

このように戦前は主に福祉の観点から給食が各地で行われました。戦争中の中断を経て、戦後、世界からの温かい支援で再出発した日本の給食は、教育活動の一つとして位置づけられたとても画期的なものでした。

平成17(2005)年の食育基本法成立後は、地場産物の活用や伝統的な郷土料理、季節ごとの行事食なども取り入れながら、栄養面だけでなく、食べることを通して社会を学び、また思いやりや感謝する心を育てていくなど、子どもたちの心も豊かにしていくような給食が目指されています。



豊二中では毎年、昔の給食を忘れないように全国学校給食週間中に昔の給食の日を設定し、練馬大根の「たくあんごはん」を献立に入れ給食の日を実施しています。昔の給食の日は「おにぎり」給食で、全校分460個を作ります。また、「たくあんごはん」には、区内で収穫された大根を区内の漬物組合が漬けた「たくあん」を使います。

